

# とある未来の城下町

班員：肥後洋平 矢吹文香 柘植大輔 中村頌 齊藤岳 TA：瀬尾誠

## <1. 土浦市の概要 >

土浦市は東京から約 60km、茨城県南部に位置する都市であり、隣接するつくば市や牛久市とともに業務核都市を担う都市である。日本第二位の湖面積を持つ霞ヶ浦や日本百名山のひとつの筑波山を望む場所に位置し、自然豊かな土地としての面を持つ一方、JR 常磐線や常磐自動車道などが通る交通の要所としての役割も担う。

戦前は海軍航空隊の基地やそれに伴う教育機関があることから「海軍の町」として栄え、戦後は土浦駅を中心とした広い商圏を持つ県南屈指の都市であった。1990 年以降のモータリゼーションの発達や郊外型ショッピングモールの台頭により土浦駅周辺の店舗撤退が進み中心市街地の空洞化が進んでいるが、現在でも一定の中心性を維持している。毎年10月に日本三大花火大会のひとつである土浦全国花火競技大会が開催されており、当日は 70 万人近い観光客が市内を訪れる。

2006 年に新治村と合併したことにより市の面積は 122.99 k m<sup>2</sup>となった。

## <2. 現状分析・問題発見>

### 2.1 人口

土浦市の人口は 2010 年 10 月 1 日現在 143,422 人である。土浦市の人口は増加傾向が見られたが、1990 年の 144,106 人をピークに近年は微減傾向にある。2010 年現在の人口に対する年代割合は年少人口割合が 13.4%、生産人口割合が 64.4%、老年人口割合が 22.1%となっており、全国平均とほぼ同値となっている。老年人口割合が高い地域は郊外部だけではなく中心部にも存在するため、高齢化対策は全体的に行う必要がある。

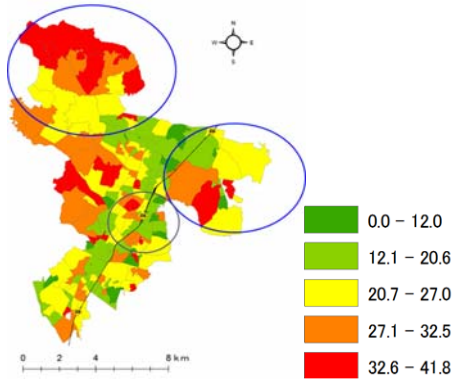


図 1：土浦市の高齢者比率分布図

出典：土浦市統計情報

### 2.2 産業

図 2 は土浦市の年の産業別就業人口のグラフである。平成 17 年の国勢調査の結果によると、日本の平均に比べ、第 3 次産業の割合が 10%ほど高い。

#### 2.2.1 農業

れんこんの生産は日本で、農業の盛んな街というイメージがあるが、農業は衰退の一途をたどっている。農業人口は減少し続けており、図 3 のように兼業農家の数は急激に減少している一方で、専業農家についてはここ 20 年で大幅な減少は見られない。理由として考えられるのは、農業の機械化である。図 4 では農用トラクタの保有状況を表しているが、平成 10 年からの 7 年間で農家 1 件当たりのトラクタ保有台数は増加しており機械化が進んでいることがわかる。

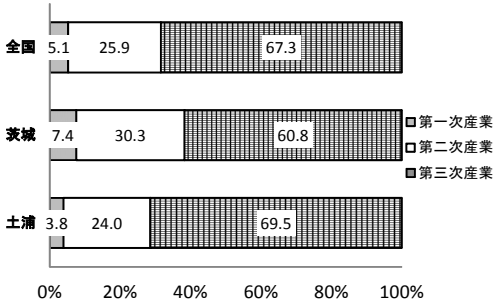


図 2 産業別就業人数の割合（平成 17 年）

出典：土浦市統計情報より

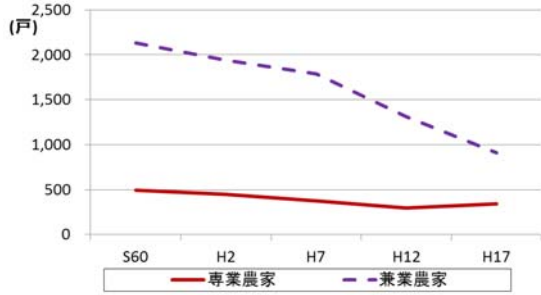


図 3 農家戸数

出典：農林業センサスより

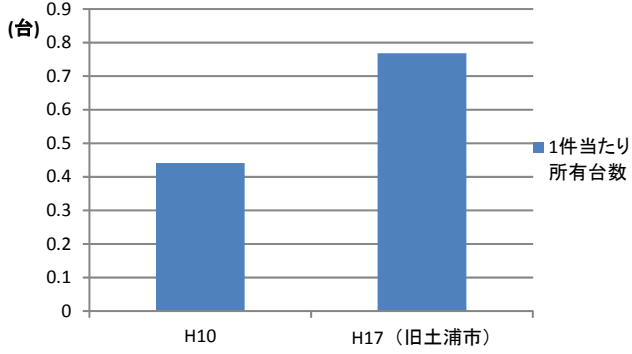


図 4 農用トラクタ保有状況

出典：農林業センサスより

土浦市農林水産課に伺ったところ、県から農業用機械導入に対してある程度の補助金を出しているが、市としては特に制度はない。れんこん等の消費拡大に対する補助制度はあるが、機械化に限って推進するものではないとのことであった。

茨城県の支援制度として、就農施設等資金の無利子貸付や、農業近代化資金の貸付制度などがあり、県内でも石岡市で農畜産業機械等リース支援事業、古河市で農業用機械購入費補助金交付制度など支援制度が整っている自治体もある。

また農業の担い手不足は深刻である。図 5 は年齢別農業従事者数を表したグラフである。平成 42 年の予測値は、20 年後も農業に従事する人の割合が変わらないと仮定して、コーホート分析による予測人口値と、農業に従事する割合を掛け合わせたものである。若者の農業従事者が少なく、農業が高齢化していることがわかる。茨城県のホームページによると、土浦市の専業農家の半数は男子生産年齢人口がおらず、将来担い手不足に陥るという。

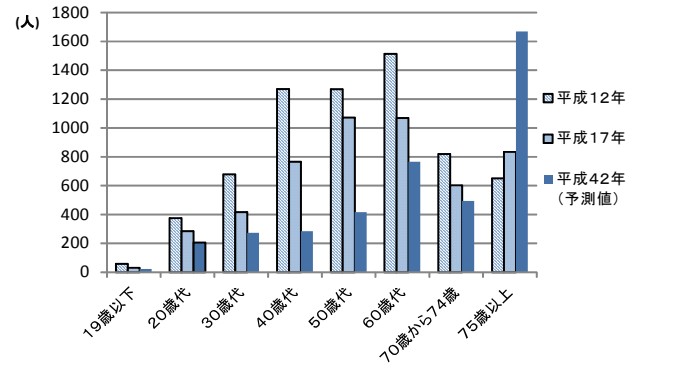


図 5 年齢別農業従事者数

出典：農林業センサスおよび独自の分析による

#### 2.2.2 工業

世界的な経済不況にもかかわらず図 6 のように製造品出荷額、従業員数ともに増加している。これを支えているのが、製造業、特に一般機械である（図 7）。建設機械製造分野における世界シェア 3 位の日立建機を筆頭に多くの製造業が立地しており、土浦の工業を牽引している。

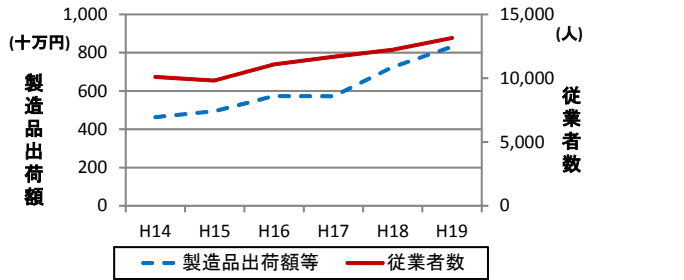


図 6 製造品出荷額と事業者数の推移

出典：工業統計調査より

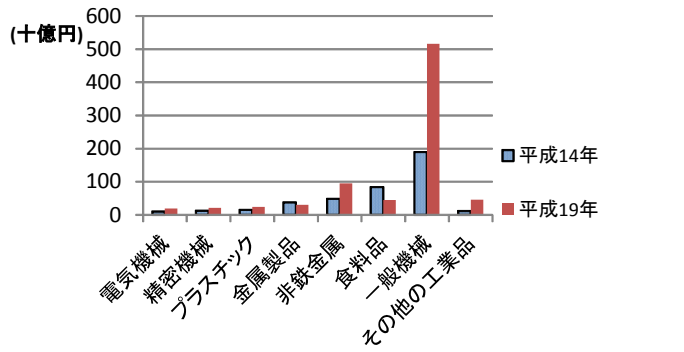


図 7 製造品出荷額（百億円以上のもの）

出典：工業統計調査

一方で、土浦市商工観光課のお話によると、ここ 2 年で誘致できた企業数は不況の影響で 0 とのことであった。

企業を誘致するための優遇措置を、茨城県も各自治体も制度化しているのだが、表 1 のように、他の 2 都市に圧倒的に劣っている。このままでは、神立の工業地域はかすみがうら市との境界を跨いでいるため、今後かすみがうら市に新規企業が流れてしまう可能性がある。

#### 2.2.3 商業

近年の土浦の商業は、大規模商業施設に押され、小売店舗数が減少している。表 2 は土浦市の小売業全体のうち、大型店が占める割合を示した表である。わずか 2.5%の事業所が、総売り場面積の約 1/4 を占めているという状況がわかる。また店舗数は減少する一方で 1 店舗当たりの売り場面積や年間販売額は増加傾向にあり、小規模な小売店は今後も厳しい経

営を迫られるであろう。

表 1 茨城県と各自治体の工業支援制度

	制度	内容
かすみがうら市	自治金融制度	運転資金、設備資金の貸付
	立地企業に対する税制上の優遇措置	固定資産税の課税免除（3 年間）
	企業立地促進条例	設備投資助成金、雇用促進補助金の交付
	企業立地促進融資利子補給要綱	利子補給金の交付
	同意企業立地重点促進区域における緑地面積率等を定める条例	緑地面積率を 5～10%まで下げられる。環境施設面積率を 10～15%まで下げられる。
ひたちなか市	固定資産税の不均一課税	固定資産税を減税
	産業集積促進奨励金	新增設に係る固定資産税相当額の奨励金交付（3 年間）
	原子力発電施設等周辺地域企業立地支援給付金（県の制度）	電気料金の割引（例として 75%OFF の例が示されていた。）
土浦市	土浦市企業立地促進奨励金交付要綱	固定資産税相当額の奨励金を給付（3 年間）

出典：企業立地支援センターHP より

表 2 大型店が小売業全体に占める割合

	土浦市の全小売業	大型店	大型店の占める割合（％）
商店数（店）	1,313	34	2.5
売場面積（㎡）	193,807	143,108	73.8

出典：土浦市ホームページ

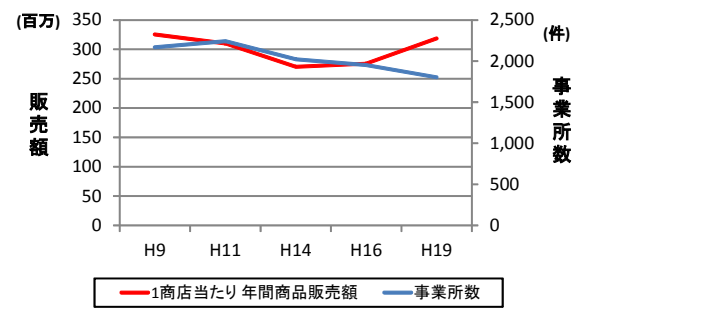


図 8 1 商店当たりの年間製品販売額と事業所数

出典：商業統計調査より

### 2.3 観光

土浦市は全国的に有名な「土浦全国花火競技大会（10 月）」をはじめ、「土浦桜まつり（4 月）」や「土浦キララまつり（8 月）」といった 10 万人以上の観光客数を見込めるイベントが開催されている。しかし、各月の観光客数は 30,000 人前後となり、3 つのイベント以外に強力な観光資源が存在しない。

### 2.4 医療・福祉

土浦市内には病院と一般診療所合わせて 127 の病院があり、県全体の 7%を占めている。さらに、茨城県の一万人数あたりの病床数の平均 120.8 に対し土浦市は 156.3 であり、水戸市の 163.5 にも劣らない病床数を確保している。一方で施設の立地は偏りを見せ、鉄道沿線に集中する傾向が見られ、土浦市は医療施設が充実してはいるが立地に問題があるといえる。



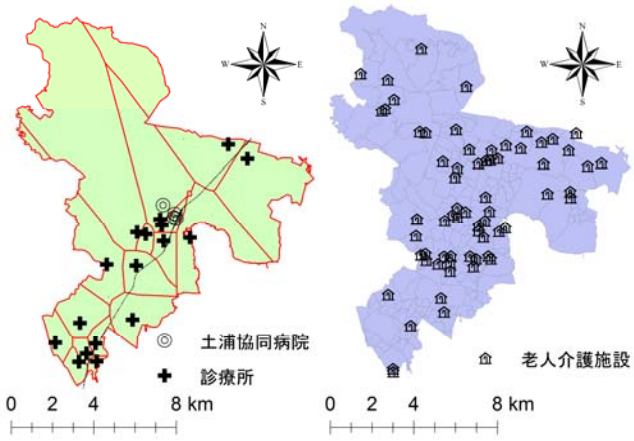


図9 総合病院・診療所・高齢者福祉施設分布

## 2.5 防犯・防災

土浦市内における犯罪の発生状況は、茨城県警察本部の「市町村別大字単位犯罪マップ」によると、駅周辺部において多くの犯罪が発生している。

防災については、消防署の配置とボロノイ分割により現状把握を行った(図10)。神立の工業団地にはすでに消防署が設置されているため、工場火災への対策が考慮されているようである。

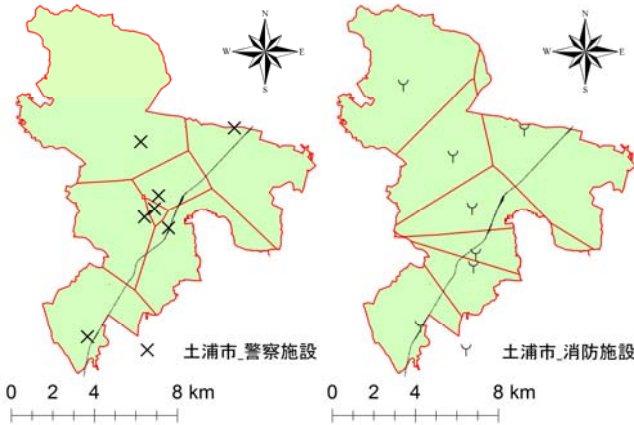


図10 土浦市の警察署・交番・消防署分布

## 2.6 教育

土浦市は県内でも高校生の数が多いことで知られているが、土浦市には茨城県全体の約10%の高校生が在籍しており、水戸の16%に次ぐ多さである。しかし、近年の少子化の影響で学生数が減少傾向にあることは避けられないようである。

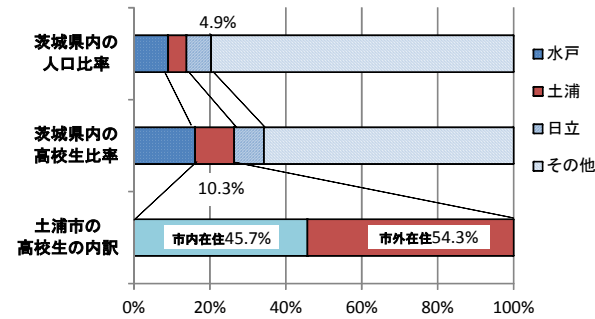


図11 3都市の高校生在籍数と県内での人口順位  
出典：各自治体のHP

## 2.7 交通

### 2.7.1 旅客輸送

土浦市内にはJR常磐線と関東鉄道バスをはじめ、様々な事業主体による公共交通機関・路線が運行されている(表3)。

しかし、近年は荒川沖駅や神立駅周辺で路線バスの廃止が進んでおり、公共交通に関して不便な地域が現れている。新たなニーズに応じて導入された「キララちゃんバス」や「のりあいタクシー土浦」などの利便性が注目されている。

「キララちゃんバス」は、2005年より試験運行をはじめ、2007年より本格運行を開始したまちづくり活性化を目的としたバスである。ワンコインで土浦駅周辺の三路線を周遊でき、さらに地域通貨制度を導入している。試験運行を始めた時から好評であり、着実に市民の足として定着している。また、「のりあいタクシー土浦」は年会費2,000円を払うことにより、片道500円で利用することができる乗り合いタクシーであり、土浦市在住の65歳以上という条件で入会ができる。停留所まで歩く必要がないため高齢者の間で好評であり、利用者数および会員数は年々増加している。

表3 土浦市公共交通機関一覧

公共交通機関	運行区間
①JR常磐線	荒川沖～土浦～神立
②路線バス	筑波山口、下妻駅、つくばセンター等
③キララちゃん	土浦駅周辺循環
④のりあいタクシー土浦	土浦市内
⑤高速バス	県庁、免許センター、成田空港等
⑥障害者へのタクシー補助	
⑦福祉施設バス	ふれあいセンターながみね
⑧スクールバス	都和小学校

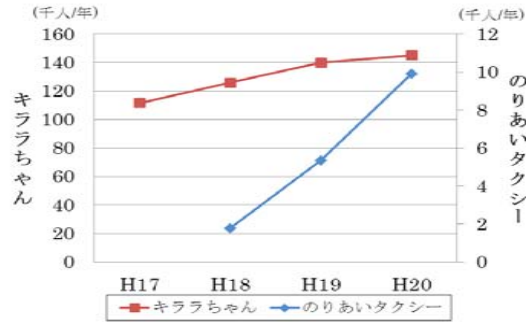


図12 年間利用者数の推移

出典：土浦市商工観光課より

### 2.7.2 貨物輸送

現在、自動車を使って茨城県から送られる貨物のうち、52%は県内へ行き、24%が千葉県に送られている。

鉄道では、神立、土浦、荒川沖駅のいずれも貨物の取り扱いを行うことができ、土浦駅には貨物列車が1日5便発着しており、そのうち2便は常磐線を南下して東京都内に向かう。土浦駅の貨物線は着発線荷役方式(E&S)を採用しており、コンテナ貨物列車が到着したらフォークリフト等を用いてコンテナの積み下ろしを行う。2便ともに夕方から夜にかけて土浦駅を出発する。

## <3. コンセプト>

これらの現状を踏まえ、我々は「とある未来の城下町」をコンセプトに掲げる。城下町全盛時代は土浦城を中心にして住居地区、産業地区と都市空間が広がっていた。これを現代版に置き換え、土浦駅が城の役割を果たす。我々の提唱するコンセプトは大きく分けて3つの要素によって構成されている。1つ目は「所得倍増計画」であり、最初に農業と工業について所得を向上させ、商業も盛り上げていく施策を実行する。2つ目に「渋谷109vs土浦モール505」を掲げ、モール505をリニューアルすることにより、近隣住民が気軽に集まる空間の創造を掲げる。3つ目の「ゆりかごから墓場まで」は暮らしの面について医療や交通、環境を考慮し、終生住み続けたいと思えるような都市像を目指す。

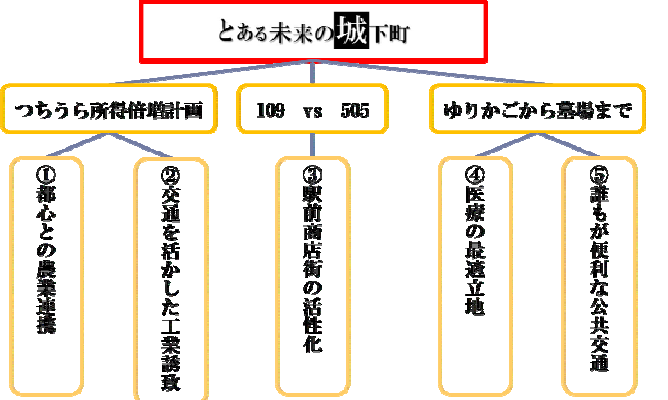


図13 コンセプト

## <4. 基本構想と提案>

コンセプトを支える3つの柱について述べる。

### 4.1 つちうら所得倍増計画

#### ①都心との農業連携

土浦市内にある農産物直売所で売買される野菜や果実は鮮度もよく、仲介業者等を極力排除することによってスーパーマーケットに並ぶ商品よりも価格面で優位性を生み出している。つくば市にある農産物直売所の「みずほの村市場」では、わざわざ東京から野菜を買いにつくばまで来る人があると報道されている。もし味や鮮度を保ったまま運ぶことができれば、東京で茨城の野菜を販売することも可能であると考えられる。夕方までに野菜を収穫して土浦駅のコンテナターミナルでコンテナに積載し、翌朝に東京で販売することを提案したい。

#### ②交通を活かした工業誘致

自動車輸送では近年の高速道路や有料道路網の整備により今後さらに利便性が向上するため、取扱量の向上が見込める。鉄道貨物では土浦駅は着発線荷役方式を採用しているため、コンテナ貨物の取り扱いを容易に扱うことができ、例えば神立の工業団地にある工場で生産した品物を土浦駅から貨物列車で輸送すれば、遠距離輸送にコスト面で有利な鉄道貨物の利便性を最大限得ることができる。

茨城空港において貨物機が就航することになれば、単価の高い製品の輸出に飛行機を利用することができる。また、海外からの資源調達にも空港は活用できる。

これら特徴を積極的にPRし、財政面での優遇措置も充実させることで他地域との差をつくり優位性を生み出す。

### 4.2 渋谷109 vs 土浦モール505

#### ③駅前商店街の活性化

駅前の商店街をアーケード化・ブランド化して、通学の学生や郊外の高齢者の集いの場にする。リニューアルしたモール505でお茶などの習い事を催し、アーケードは高校生でにぎわう状況を創造する。余暇は取り敢えず駅前に行こう！



図14 アーケードの例(板橋区ハッピーロード大山商店街)  
<http://www.news.janjan.jp/business/0811/0811240195/img/photo168790.jpg>

### 4.3 ゆりかごから墓場まで

#### ④医療の最適立地

医療施設配置の現状として、新治地区は診療所すらない状態であり、医療サービスが十分とは言えない。サービスの向上のための医療の在り方として本発表では医療施設の集中型と点在型のパターンを提案し、今後どちらの形式がより土浦市にあった医療のかたちであるか検討していく。

高齢者福祉施設は市内全域にわたって満遍なく分布しており、高齢化率の高い新治地区においても交通体系の見直しにより高齢者が福祉施設へ自ら出かけていき、また帰宅するといった生活の形態を実現することが可能となる。

#### ⑤誰もが便利な公共交通

既存のコミュニティバスや乗り合いタクシーの推進によって交通弱者の減少を図る。また、路線バスの廃止された地区で産業や工業を誘致し、その地域に活気を生み出すことにより、公共交通の重要性を改めて見直させ、行く先には廃止された区間での路線バス運行を再開するという目標を掲げる。将来的には、土浦市の全域を公共交通機関が網羅し、全ての住民が安心して利用できる公共交通機関の実現を目指したい。

## <5. 設定する人口フレーム>

現状のままでは推定人口は平成32年に137,722人、平成42年に127,536人となるのだが、我々の方策により人口は現状維持されると考える。よって目標の人口フレームは平成32年で140,000人と設定する。

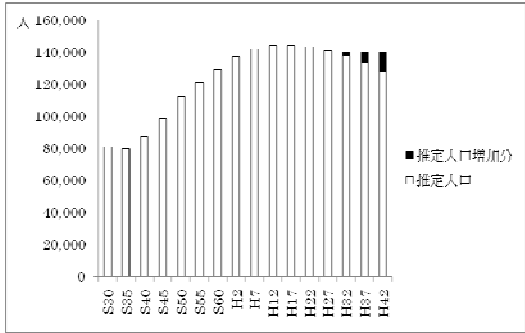


図15 人口フレーム

## <6. 謝辞>

土浦市商工観光課および農林水産課中根さん、商工観光課平井さんに土浦市の産業現況について伺いました。

## <7. 参考文献>

- 企業立地支援センターHP 2010/12/21 <http://ritti.jp/preferential/index.html>
- 石岡市HP 2010/12/20 <http://www.city.ishioka.lg.jp/>
- 古河市HP 2010/12/20 <http://www.city.ibaraki-koga.lg.jp/>
- 財団法人茨城県農林振興公社 2010/12/21 <http://www.ibanourin.or.jp/index.html>
- J A土浦HP 2010/12/19 <http://www.ja-tsuchiura.com/>
- 茨城県農林水産部HP 2010/12/20 <http://www.ja-tsuchiura.com/>
- いばらきの工業団地HP 2010/12/18 <http://www.pref.ibaraki.jp/indus/>
- 土浦市HP <http://www.city.tsuchiura.lg.jp/>
- いばらき統計情報ネットワーク <http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/index.html>
- 政府統計の総合窓口 <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>
- 土浦市地域公共交通総合連携計画 [http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1274404031\\_doc\\_34.pdf](http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1274404031_doc_34.pdf)
- NPO法人「まちづくり活性化土浦」 <http://npo-kirara.org/>
- 茨城県警察本部 2010/12/18 <http://www.pref.ibaraki.jp/>
- iタウンページ <http://itp.ne.jp/>
- みずほ村市場 <http://www.mizuhonomuraichiba.com/>
- テレビ東京 カンブリア宮殿 <http://www.tv-tokyo.co.jp/cambria/list/list20090810.html>
- 国土交通省 平成18年 [自動車貨物都道府県別流動表](http://www.mlit.go.jp/k-toukei/search/excel/16/16200600x00010.xls)  
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/search/excel/16/16200600x00010.xls>